

普及活動情勢報告（令和元年6月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

花き栽培における土壌病害対策 ～低濃度エタノール土壌還元消毒に関する研修会および現地検討会が開催されました～



6月17日、花き栽培における低濃度エタノールによる土壌還元消毒に関する研修会および現地検討会が中央東農業振興センター管内で開催され、生産者や関係機関職員ら約40名が参加しました。現地検討会では専門家を交えて協議しながら処理方法について助言しました。今年度はトルコギキョウの3ほ場で実証試験を予定しており、参加した実証農家からは「期待される効果がわかった。研修会で学んだ処理方法を実践したい」との声が聞かれました。

農業改良普及課では、現地実証試験の支援とともに土壌病害対策技術の向上に向けて取り組んでいきます。

南国市への就農希望者の就農支援対策



6月19日、農業担い手育成センターにおいて、南国市への就農希望者の面談を市担い手協議会メンバーで行いました。担い手協議会では就農までのステップとして、まず同センターでの基礎研修、次に指導農業士のもとでの研修を勧めており、今回は7月に基礎研修を終える研修生と今後の研修と就農についての意見交換を行いました。研修生からは、研修終了後は実践用のサポートハウスで実践研修ができれば助かるなどの意見が出ました。

農業改良普及課では、引き続き、関係機関と協力し就農を支援していきます。

6次産業化による地域の活性化を目指して



6月20日、香美市基幹集落センターにおいて、集落活動センター美良布の部会「むすぶ」の3名が6次産業化セミナー実践コースの現地指導を受けました。「むすぶ」は、地元のユズと大葉を使った加工品の開発により、地域の活性化を目指しています。農業改良普及課は、地域支援企画員と連携し、6次産業化セミナー実践コースへの応募にあたり、課題や問題点の整理等の支援を行いました。

セミナーでは、アドバイザーとこれまでの取り組み状況や課題等について検討し、今年度の取り組みの方向性が決まりました。

今後も引き続き、地域支援企画員と連携しながら、「むすぶ」の6次産業化の取り組みを支援していきます。

ネギアザミウマや高温に負けない！青ネギ現地検討会を実施しました。



5月29～31日、JA高知県香美地区洋菜部会は、青ネギの現地検討会を5カ所で開催し、部会員計43名が参加しました。

現地ほ場で栽培状況を確認したあと、夏場の高温対策や新しい農薬、GAPについての情報を共有しました。農業改良普及課は、事前にJA営農指導員と協議し、農薬一覧と栽培履歴の内容確認を行うなど、管理作業のための資料作成を支援しました。参加者からは、今期多発しているネギアザミウマの防除や寒冷紗を使った高温対策に関する質問が出るなど、品質の高い青ネギ生産への意欲を感じました。

農業改良普及課では、青ネギの農家戸数・栽培面積を維持するための部会活動を支援していきます。

ハウスミカンの I P M実証ほ調査



6月19日、香南市香我美町のハウスミカンの I P M実証ほで、J A 営農指導員と農業改良普及課及び農業技術センター等のプロジェクトチーム員がスワルスキーカブリダニ等の調査を行いました。

今作は、前年度試験で得られた知見や新たな天敵保護資材を加えた実証試験を2カ所で実施しており、2カ所ともハダニを要防除水準以下に抑えています。土着のミヤコカブリダニがハウス内で増殖していること等、新たな知見が得られ、技術の安定化や低コスト化の可能性が高まりました。実証農家の評価も高く、次作でも引き続き天敵を導入する予定です。

農業改良普及課では、実証農家や関係機関と協力し、産地に適した天敵利用技術を完成させて早期の普及を目指します。

JA高知県香美地区シシトウ部会が露地・雨除け栽培の現地検討会を開催



6月11日、12日、13日に物部・香北・山田で露地・雨除け栽培のシシトウ現地検討会が開催され、生産者23名が参加しました。

農業改良普及課からは、側枝を寝かせて小枝を立たせる整枝方法や気温・降水量の気象データ、生育状況や天候等に応じたかん水管理等について説明しました。

生産者からは「前作は肩張り果が多かったが原因は何か。」「下葉はとっても良いか。」「カメムシ、アブラムシが今年が多い。」等の声が聞かれました。

農業改良普及課では、現地検討会や栽培講習会等により露地・雨除けシシトウの収量・品質向上を図っていきます。